

## 平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

### 1. 学校概要

学校名 岡山市立藤田中学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  中高一貫教育  高等学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )

所在地 〒701-0221  
岡山県岡山市南区藤田400番地

E-mail fujitac@city-okayama.ed.jp

Website \_\_\_\_\_

児童生徒数 男子 188名 女子 148名 合計 336名  
児童・生徒の年齢 12歳～15歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

### 3. 活動内容

#### (1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

##### 1. 本校のESDの特徴

藤田地区は、19世紀末以来児島湖を干拓してできた地域である。将来に展望が持てる藤田地区をつくっていくためには、環境の保全と回復とともに、地域の特色を見直し、地域での世代を超えた交流が必要である。また、地域だけでなく、岡山、日本、世界など広い視野を持った生徒を育成したいと考えている。

##### (1) 地域に目を向け、世代を超えた交流ができる生徒の育成のために

- ①地域の自然・歴史・文化の学習を通して環境や世代間の公平をめぐる問題の背景等を理解する。
- ②興陽高校の生徒を講師にして草花を育てる「花いっぱい運動」を地域住民と協力して実施する。
- ③ボランティア活動として地域の祭りの運営に携わり、生徒会活動の一環として藤田公民館主催の「親子ふれあい理科教室」の運営スタッフとして活動する。

##### (2) 岡山から日本、世界へと視野を広げられる生徒の育成のために

- ①中学1年生が南支援学校と交流を行い、人権教育をすすめる。
- ②中学3年生で学ぶ長崎平和研修を通して、原爆の恐ろしさ、戦争の怖さ、平和の尊さを体感して、世界中の人たちといっしょに活動する。

##### 2. ユネスコスクールとしての活動・全体計画

##### (1) 「職場体験」プロジェクト

つけたい力 

・未来像を予測して計画を立てる力
・他者と協力する態度

2年生が3日間少人数グループに分かれて地域の職場に赴き、様々な仕事の体験を積む。

##### (2) 「花いっぱい運動」プロジェクト

つけたい力 

・コミュニケーションを行う力
・他者と協力する態度

授業外の活動として学年を超えて有志による活動を行う。

5月に、藤田公民館の協力を得て、生徒会が主催する「花いっぱい運動」を展開する。

11月には、本校を舞台に3日間にわたって、興陽高校生徒、地域住民といっしょに地域を彩る花を植えたり交流活動をしたりする「花いっぱい運動」に取り組む。

##### (3) 地域社会や公民館主催の活動への主体的・共同的参画

つけたい力 

・コミュニケーションを行う力
・責任を重んじる態度

- ① 授業外の活動として学年を超えて有志による活動を行う。公民館を会場に、生徒会主催の「親子ふれあい理科教室」を年数回実施し、スタッフの一員として参加する。
- ② 地域のお祭り（どんぶらこ収穫祭、藤田ふれあい祭りなど）の運営スタッフとして参加する。
- ③ 文化委員会が夏休みに地域の小学校を訪問して児童に絵本の読み聞かせを行う。
- ④ 2年生が、出身小学校へ行って、正門に立ち、朝のあいさつ運動に参加する。
- ⑤ 1年生（一藤小卒業生有志）が、第一藤田小学校へ行き、都保育園の園児と児童（4年生）、生徒が協力して地域の清掃活動に取り組む。

##### (4) 人権教育プロジェクト

つけたい力 

・コミュニケーションを行う力
・つながりを尊重する態度

- 1年の総合的な学習の時間に取り入れる。
- 1年生 12月：南支援学校との交流を行う。

(5) 平和学習プロジェクト

つきたい力

・批判的に思考・判断する力
・つながりを尊重する態度

- 2年、3年の総合的な学習の時間に取り入れる。
- 2年生 1月：原爆の恐ろしさ、戦争の怖さを学ぶ。
- 3年生 5月：修学旅行で被災地長崎を訪れ、真の平和について考え国際理解を深める。
- 3年生 9月：文化祭で中学3年間に学んだことを集大成させて世界に訴える。

3. 特徴的な活動事例の紹介

- ・9月30日(水)本校文化祭ステージ発表で2年A組が劇「泣いた赤鬼」を上演した。その際、ESDの視点からオリジナル脚本を作り、環境問題について訴えた。

4. 本年度の成果と課題

○成果と課題

① 学校としての成長

実践活動報告の原稿作成に多くの教職員がかかわりを持つようになった。しかし、まだ全教職員がESDの活動に積極的に取り組んでいるとは言えない。

評価方法として the most important thing を活動のあとに生徒に書かせることにより、生徒のとらえ方と教職員が持っていたねらいとの比較ができるようになった。

② 子どもたちの成長

文化祭のステージ発表でESDの視点から劇を作り、全校生徒及び保護者、地域住民に環境問題について訴えることができたことは、大きな成果だと考えられる。しかし、それを受け止める側に、その真意がうまく伝わったかという疑問が残り、ESDが掲げる理念を訴えることの難しさも分かった。ESDを発表する側もESDの発表を聴く側も、双方ともに常日頃から環境問題や人権問題、世界平和について考える余裕というか、ゆとりが必要だと思われる。

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他( )